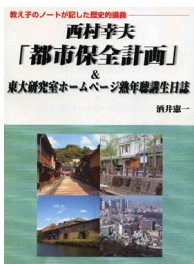


西村教授著『都市保全計画』の大著刊行とハノイ旅行で盛り上がった研究室

2004 年は西村幸夫教授の大著『都市保全計画』（東京大学出版会、04 年 9 月 28 日）が刊行される一方、11 月 28 日～12 月 2 日は研究室旅行でハワイに遠征するなど、研究室は盛り上がった。同著は 15 年来の講義の集大成で、1050 ページに及ぶ事典兼教科書である。刊行後初の講義が今年 4 月 7 日に開講し、学部 4 年生 40 人が教授から同著はじめ 20 冊の実物文献を前にした特別授業を受けた。



研究室で 20% オフ 12,000 円でぜひお求めを！



⇒左の本、研究室から全員に配付 受け取っていない人は山道さんに申し出てください。

西村「都市保全計画」講義と大学院「都市設計特論 1」に皆出席した聴講生酒井がその都度自発的に提出した小論文が、研究室ホームページに「熟年聴講生日誌」として 9 月から公開され、同聴講生が記した講義ノートの要約を第 I 部、小論文を第 II 部としたブックレット『教え子のノートが記した歴史的講義 西村幸夫「都市保全計画」&熟年聴講生日誌』が 12 月にアメニティライフから刊行された。160 ページ。890 円。

今年度第 1 回研究室会議 4 月 14 日（木）17 時から。M2 による喜多方（戸田）、鞆の浦（伊藤）、八尾（大谷）、京浜（黒瀬）、谷中（阪口）、大野村（田辺）の熱心なプロジェクト紹介、プラス浅草（中島助手）のあと、M1 全員が卒論や抱負など織り込んだ自己紹介。1 階フロアで全員記念撮影後、あかあかで 40 人満員の新歓コンパを開き、M2 田辺の司会で座席交換もあって高揚した。

- ・喜多方 昨年空き蔵をまちづくり寄合所にしたが、注目されてカフェに売却され、次の空き蔵に移るという好調ぶり。まちづくりを方向づける全体プランを県から委嘱された。東北まちづくり学会第 2 回開催もできそうだ。ご飯とお酒の好きな方はどうぞ。
- ・鞆の浦 広島県の潮待ちの港町として栄えてきた風光明媚なところ。人口減と空き家増、細い道の交通渋滞が目立つ。サーベイ、ワークショップを重ね、空き家を改造したりしてまちづくりに取り組む。みんなでつくった評判の『隣隣誌』はぜひ見てほしい。
- ・八尾 おわら盆で有名な越中八尾のまちづくり空間戦略に取り組んでいる。駅前のにぎわいづくりを頼まれ、参加も面値充分。
- ・京浜臨海 スタートした臨海部再生プロジェクト。工場、運河、廃線跡などの再生活動を通して、都市空間の持続再生学の創出。
- ・谷中 東大に近い古いまちで、芸大修復研究室とまちなみ作法の読解をしてきた。今年は東大側が開発シミュレーションをする。
- ・大野村 岩手県北部の村。2000 年から入村活動。5 地区のうち拠点地区を毎年変えて、Campus Village Plan を進めている。水沢地区の愛称「みっちゃあ」を冠した「みっちゃあミュージアム」や地元の人たちとの案内板づくりもしてきた。
- ・浅草 8 月開通の筑波新線で浅草六区に浅草駅ができる。15 店と少数ながらやる気のある駅前通りの店主が復興に立ち上がった。

遠藤助手最終レクチャーと追いコン 4 月からの金沢工業大学専任講師赴任を前にした遠藤新助手は、

助手時代の研究総括 80 分レクチャーをおこなった。研究室各プロジェクト、地方都市アーバンデザイン、米国ダウンタウン研究の詳細が報告された。前列に並んだ M2 全員は、つづく加賀屋の追いコンで感激のスピーチをおこなった。

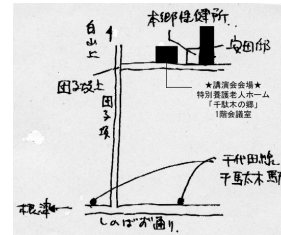


藤本ふみさん結婚パーティ 修士として社会人になった藤本ふみさんは、長い恋が実り、銀座ファーストファイブガーデンで結婚パーティを開いた。夫君のほかはふみさん（和服）の友人、知人の祝宴で、研究室から3助手、M2、聴講生ら 10 名近くが出席して花束を贈った。後日のお礼メールに「藤本ふみ改め、永井ふみとして石塚恒事務所で新スタートしました」とあった。



西村・北沢ほか近刊共著 岩波講座『都市の再生を考える』第7巻「公共空間としての都市」05年1月、西村幸夫（編集委員）「commonsとしての都市」、北沢猛「空間美と都市デザイン」ほか。前者は都市空間の構成原理として居住、経済、統治の三原理を挙げ、相克を超え居住原理から再出発をと強調し、後者は都市の空間構成原理の基本として市民生活を置いた立論。2900円。

池田聖子博士課程OGメールで旧安田邸見学「研究室のみなさまこんにちは。日本ナショナルトラストの池田聖子です。こうやってみなさんにメールを出すのが、少し変な感じがですが、宣伝です。4月9日（土）に当財団が取得し、修復工事中の旧安田繻紙邸において見学会と講演会を行います。場所は千駄木です」。親切な手描き地図に心が動いた研究生酒井が参加した。



OBの活躍 研究生出身の寺田弘さん（会社社長）は、NPO 法人粋なまちづくり倶楽部理事長として「神楽坂藝術路地シンポジウム」を開催、第5回の3月28日（月）は、呉善花石碓大、杜国慶立教大両教授の講演と西村幸夫東大教授を交えての鼎沸が狂巻だった。美しい東京をつくる都民の会事務局長で「景観を語る夕べ」（3月12日、新宿文化センター）などでも活躍している。

東京の定点観測研究会（東京カメラ） 慶応都立大、中島東大助手らが立ち上げたこの研究会は、「30年撮景、100箇所」を目標にデジカメ設置場所を求めている。二度と戻らない瞬間瞬間の都市の姿の記憶と記録プロジェクトである。3月9日に早大理工学部で公開ワークショップを開催した。問い合わせは中島助手まで。

編集後記 新歓コンパで、ハノイ旅行で生々しい古都水害地突破ルポを書いた黒瀬 M2 に、「爆発的に充実している研究室に何かマガジンが創刊できないだろうか」と相談しました。直後に西村教授の「研究室のホームページをどしどし活用してほしい」とのスピーチがありました。昨年の研究室忘年会での「時間は闘ってつくるもの」という同教授の檄も念頭にあり、学年初めを逃すなとまず私がテスト版をつくり、研究室の賛同を経てここに『都市デザイン研マガジン』が実現しました。先輩とのコミュニケーションも期待されます。研究室のホームページで連載されます。（酒井）

